2.3 カリキュラム

2.3.1　導入科目

導入科目は4つのメディア表現基礎から構成されます。まず、本学の教育研究方針を紹介し、今後の研究活動の基盤となる相互理解と共同作業への動機付け、そして修士研究の基礎要件を養うために、メディア表現基礎1（導入）を開催します。次に高度なメディア表現に必要な知識や思考を深めるための導入として全教員によるメディア表現基礎2（理解）を行います。そしてアカデミックな場から社会へ活動を還元するために必要とされる研究発表等の技術を実践的に習得するメディア表現基礎3（制作）を開講し、研究・制作を進めるための基盤力と情報に関する共通知識を得て成果をまとめるドキュメンテーション技術を習得するメディア表現基礎4（計画）によって締めくくられます。これらの科目を通じて、今後の専門科目、プロジェクト科目あるいは特別研究の履修に必要となる基礎的な知識・技術の確認と習得をねらいます。

（**1**）メディア表現基礎**1**（導入）

ワークショップ形式の授業を通じ、作品制作や研究活動において必要とされるメディアや情報の扱いに対する理解や利用方法を習得し、共同作業やディスカッションを通じて議論の進め方や対話方法を深めることを目的としています。

（**2**）メディア表現基礎**2**（理解）

プロジェクト科目と研究科目で行う実践的かつ専門的研究・制作に対応し、高度なメディア表現に必要な知識や技能を身に付けるための特論科目の概要を紹介するとともに、特徴的な内容を実践に即した講義として開講し、その意義を対談や質疑応答によって明らかにします。

（**3**）メディア表現基礎**3**（制作）

グループワークによってひとつの制作課題に取り組みながら、いくつかのレクチャーやワークショップを交えつつ、協働による制作の可能性について議論・検討していきます。最終的にグループごとに課題発表をおこないます。

（**4**）メディア表現基礎**4**（計画）

メディア表現基礎1、2、3を踏まえて、入学前に準備した研究計画を再検討し、アップデートします。研究をすすめる上での言語化、調査方法、プレゼンテーションに関する基礎的な実践の機会となります。

2.3.2　綜合科目

芸術、テクノロジー、社会という視点から、現代に至る複雑な問題系に対する見取り図と、深い議論のための基盤となる知識を提供することを目的としています。それぞれの研究・制作につなげられるよう、総論（綜合学1）、展開（綜合学2）、各論（綜合学3）の3段階から成る連続講義として構成しています。各会の担当教員はそれぞれの専門性を背景に話題を提供し、最終回ではそれまでの講義を踏まえて各自の研究・制作と接続した発表と議論を行います。これにより、それぞれの理解度を確認するとともに、文脈に応じた理解を促します。具体的な構成・内容は以下のとおりです。

（**1**）綜合学**1**（総論）

綜合学1では、芸術論・技術論・メディア論という三つの観点から見た見取り図を提示します。テクノロジーを、芸術表現のための道具や手段ではなく、芸術の〈メディウム〉として思考する異なる視点を学び、現在メディアアートが置かれている状況や

問題を乗り越える豊かな解釈の可能性に目を向けます。このため、芸術表現の始原を理解し、技術やメディアとの関係を人類史的スパンで俯瞰する視野を提示します。

（2）綜合学2（展開）

綜合学1で提供した、問題系全体の見取り図を基に、さらに踏み込んで考えていくために展開します。生命とアート、アーカイバル・リサーチ、メディア・イヴェント論、メディアとケア、身体とアート、人工知能、生命と時間、分析理論としてのジェンダー論という話題についての講義を踏まえ、最終回では綜合学2の内容と自分の研究・制作を関連付けて発表・議論します。

（3）綜合学3（各論）

綜合学1（総論）、綜合学2（展開）で得られた統合的な視点から、メディア表現の研究、制作を深化する目的で各論にあたります。メディア技術論、文化人類学、エコロジー、ネオ・サイバネティクスと技術多様性、メディアアートにおけるアーカイバル・リサーチ、〈個〉と〈公〉とアートをとりあげます。最終回は、学生が取り組む主題に接続した話題提供を課し、議論の機会を持ちます。

2.3.3 専門科目

プロジェクト科目と研究科目で行う実践的かつ専門的研究・制作に対応し、高度なメディア表現に必要な知識や技能を身に付けるための特論科目です。制作方針や研究内容・目的に応じて必要となる科目を選択し履修します。 専門科目は5つの特論で構成され、それぞれの領域の専門性と横断性を特徴とします。

2.3.4 演習科目

作品制作やプロジェクト科目を実施するために必要となる応用的・総合的な技能の修得を目的としています。具体的なテーマに沿って、必要となる先進的な技術等についての基礎知識の理解と実践的な基礎スキルの練習を行います。専門性に自足することのない複眼的な視野、及び実践的関心を基盤とする理論形成能力の育成を目標としながら、メディア表現における新たな問題の発見・解決方法の習得を目指します。研究能力とその基礎となる知の内実化を培います。

2.3.5 プロジェクト科目

表現活動の個人的・内面的な質は、その対極にある社会的・コミュニケーション的な空間と対決することで、はじめて深く鍛えられます。メディア環境がめまぐるしく変貌する今日、こうした開かれた表現活動の場は重要です。これらを実現するため学生はプロジェクト科目を履修することで、今の社会に接し表現活動における意味の抽出をはかり、社会へ向けた成果の発信や外部との連携を強く意識し、領域横断的に運営されます。1年から2年まで履修し、プロジェクトに参加します。
また、プロジェクトはその内容が個別の分野の基礎研究の比重よりも、応用研究によって得られた「新しい視点の提示」を重視しています。それらは領域横断的な視点からのみ提案できる体系研究、表現研究、調査研究、運用研究を示します。

2.3.6 研究科目

修士論文、修士作品の作成に対する研究活動や、課題解決に必要な方法等を習得することを目的としています。研究指導資格を有する教員の下で指導を受けて修了に向かって能力を向上させます。適時おこなわれる指導教員による個別指導やゼミ形式による意見交換や公開指導等を開催します。

また、セメスター毎に2週間程度の期間を特別面談期間として、指導教員の指導によって、専門分野以外の複数の教員に各自の研究について説明を行ったり、アドバイスを受けたりすることで、研究の客観性を自ら理解する機会を設けています。

さらに年次発表、構想発表、中間発表、作品審査、最終試験などの修士研究の発表および参加を行います。

導入科目	綜合科目	専門科目	演習科目	プロジェクト科目	研究科目
メディア表現基礎1（導入）	綜合学1	メディア表現特論A（環境）	制作基礎	プロジェクト実習1A	特別研究 1A
メディア表現基礎2（理解）	綜合学2	メディア表現特論B（応答）	制作演習A（設計）	プロジェクト実習1B	特別研究1B
メディア表現基礎3（制作）	綜合学3	メディア表現特論C（概念）	制作演習B（技術）	プロジェクト実習1Ai	特別研究1Ai
メディア表現基礎4（計画）		メディア表現特論D（造形）	制作演習C（造形）	プロジェクト実習1Bi	特別研究1Bi
		メディア表現特論E（設計）		プロジェクト実習2A	特別研究 2A
				プロジェクト実習2B	特別研究 2B